

(8) 中国



中国地域では、景気は下げ止まっている。

- ・ 鉱工業生産は増加傾向にある。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい。

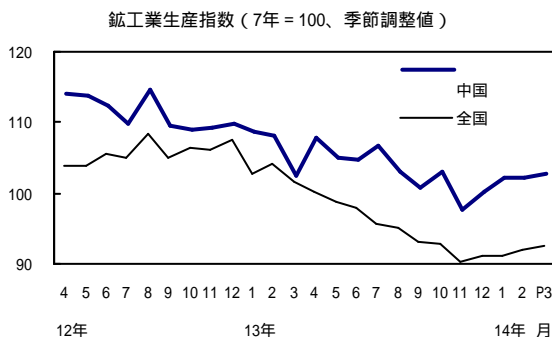
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 14 年 2 月)	今回 (平成 14 年 5 月)
総括表現	悪化している	下げ止まっている
鉱工業生産	さらに減少	増加傾向
個人消費	やや弱含み	おおむね横ばい
公共投資	このところ前年を上回っている	前年を下回っている
雇用情勢	厳しさを増している	依然として厳しい

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加傾向にある。

化学は、国内向けが低調なものの、輸出に動きがみられること等から、おおむね横ばいで推移している。一般機械は、クレーンやボイラ等を中心に減少した。鉄鋼は、アジア向け輸出や自動車向けの需要の増加等から増加した。電気機械は、在庫調整の進展や輸出の増加等から液晶や半導体集積回路を中心に大幅に増加している。自動車は、北米向けの輸出が好調なことに加え、新型車の製造が開始されたこと等から増加した。



(備考) PIは速報値。

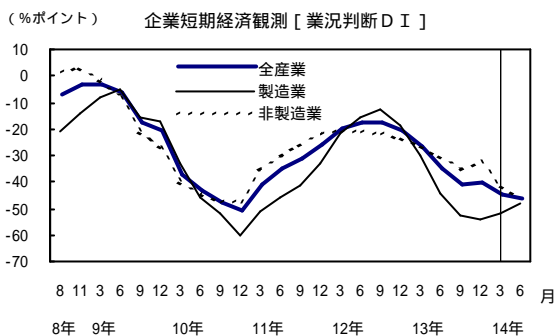
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期		
化学	16.5	0.0	0.1	1.8	2.8		
一般機械	11.5	8.5	15.9	14.5	17.7		
鉄鋼	11.4	10.1	6.5	2.8	7.7		
電気機械	10.3	3.1	19.1	21.1	4.8		
自動車	9.8	6.3	6.3	5.5	2.4		
鉱工業	100.0	3.2	2.1	2.8	3.6		

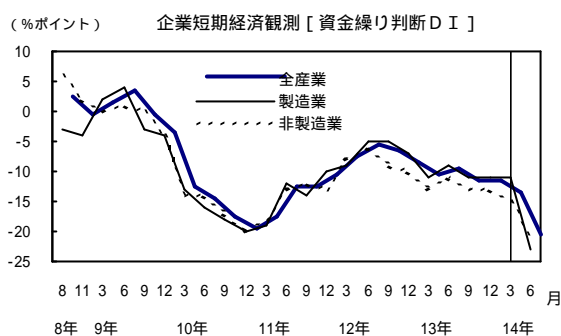
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1~3月期は速報値。

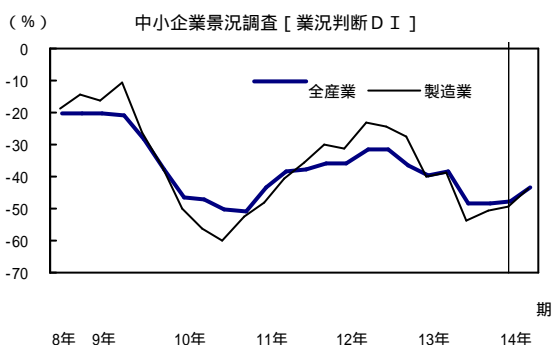
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。
 企業短期経済観測調査 [業況判断DI、資金繰り判断DI] 及び中小企業景況調査 [業況判断DI]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。6月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。6月は予測



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (4月調査)[企業動向関連 (現状判断)]

「通信サービスの値下げ競争は一段落した感があるが、低価格のメニューに関心を示す客の傾向が続いている (通信業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

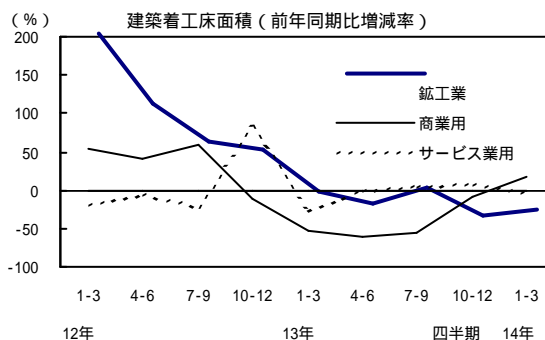
(3) 設備投資の13年度実績見込みは12年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査)]
 (前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績見込み	14年度計画
全産業	8.1 (1.3)	11.0
製造業	6.2 (1.5)	19.6
非製造業	10.0 (1.0)	2.5

(備考) ソフトウェアを含む設備投資。

()は前回 (12月) 調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

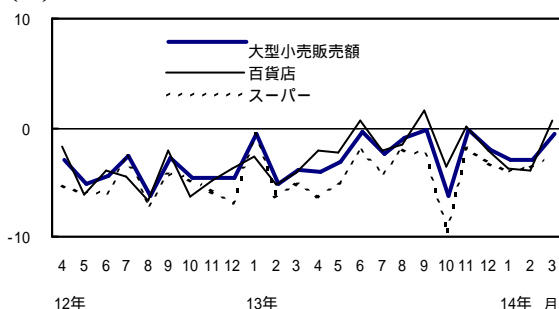
百貨店は、気温が高めに推移したことから、1～2月は冬物衣料が不振であったものの、3月は春物や初夏物の衣料品に動きがみられ、地下食品売場やブランド品が好調であったことなどから、既存店では4か月振りに前年を上回った。

スーパーは、主力の飲食料品が依然として不振であることや衣料品の動きも鈍かったことなどから、前年を下回っている。

景気ウォッチャー調査(4月調査)[家計動向関連D I(現状判断)]

「依然として青果等の相場は低下したままであり、特売品や目玉商品の価格も他店と同様に安くなるばかりである(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(%) 大型小売店販売額(店舗調整済、前年同月比増減率)



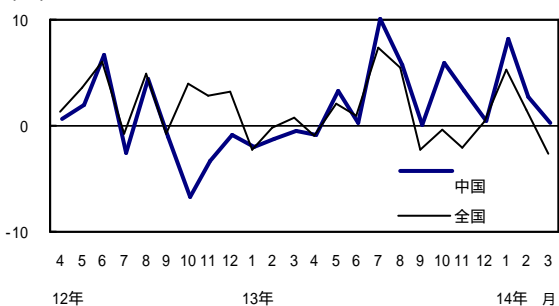
(前年同期比増減率、単位：%)

	13年4-6月	7-9月	10-12月	14年1-3月
大型小売店	3.4	2.1	3.6	3.0
百貨店	1.4	0.9	2.0	2.2
スーパー	4.5	2.9	4.7	3.4
乗用車	0.6	3.8	1.7	1.3
景気ウォッチャー	45.7	36.4	34.7	39.2

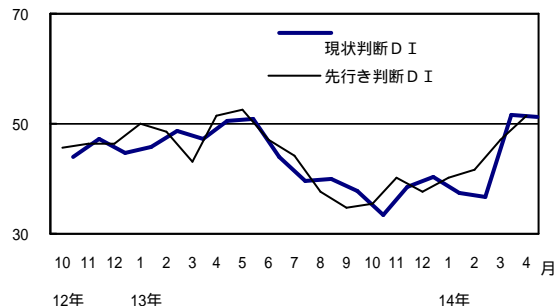
(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。

(%) 乗用車新規登録・届出台数(前年同月比増減率)



景気ウォッチャー調査(家計動向関連D I)

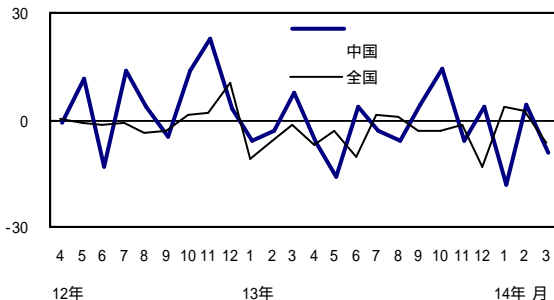


(2) 住宅建設は減少している。

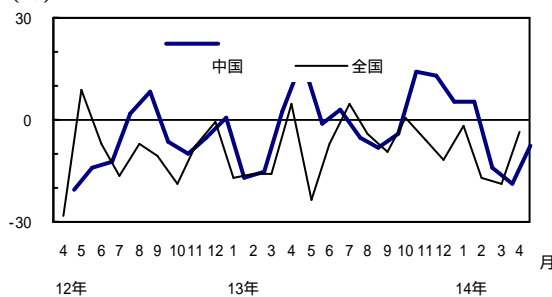
持家、分譲を中心に前年を下回っていることなどから減少している。

(3) 公共投資は前年を下回っている。

(%) 新設住宅着工戸数(前年同月比増減率)



(%) 公共工事請負金額(前年同月比増減率)

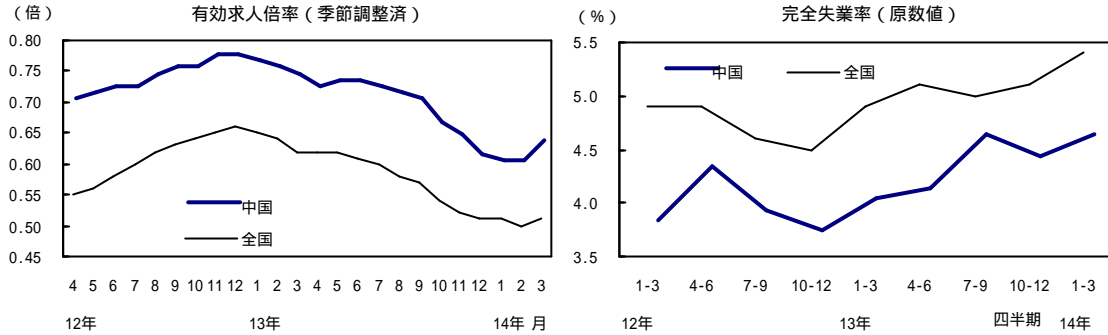


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

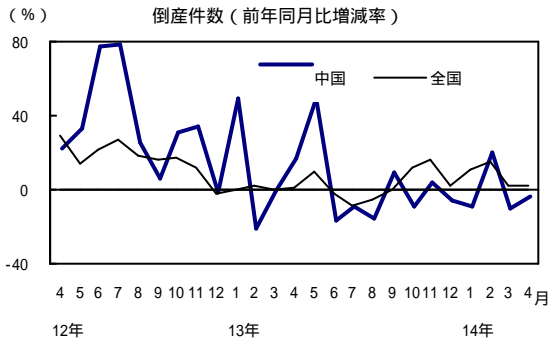
有効求人倍率は3月に上昇している。完全失業率は前年同期を上回り、高い水準にある。



景気ウォッチャー調査 (4月調査) [雇用関連 (現状判断)]

「即戦力になる人物であれば増員して採用することを考えている企業はあるが、採用基準が高く結果として採用者の増加につながらない (民間職業紹介機関)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数が減少している。



	(件、億円、%)				
	13年4-6月	7-9月	10-12月	14年1-3月	4月
倒産件数	259	234	231	233	73
(前年比)	7.9	12.7	11.5	7.9	11.0
負債総額	673	960	553	975	200
(前年比)	6.3	84.0	50.1	44.1	26.3

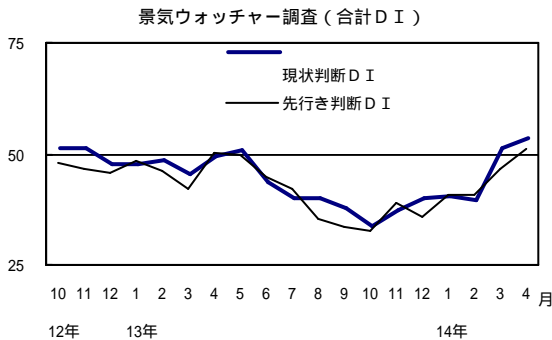
景気ウォッチャー調査 (4月調査) [合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・新製品の生産が予定よりも大幅に増加したため、休眠設備の臨時使用が決定されている (輸送用機械器具製造業)
- ・春物と夏物が充実し、例年ならまとめ買いの客が目立ってくるが、今年はそのような客が少なく、来客数が落ち込んでいる (百貨店)

<先行き>

- ・4月に入ってからエレクトロニクス向けの材料に動きが出ており、受注も活発になっている (鉄鋼業)



(9) 四国



四国地域では、景気は下げ止まりつつある。

- ・ 個人消費はこのところやや持ち直している。
- ・ 住宅建設は緩やかに減少している。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい。

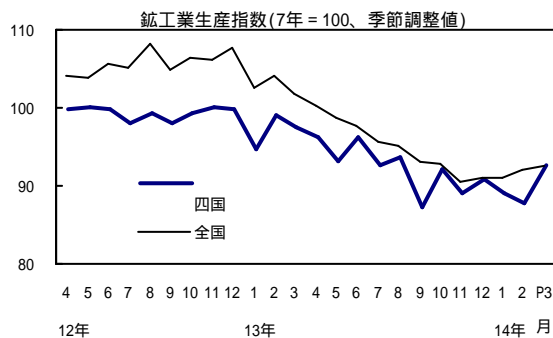
前回調査からの主要変更点

	前回（平成14年2月）	今回（平成14年5月）	
総括表現	悪化のテンポが緩やかになっている	下げ止まりつつある	
個人消費	弱含み	このところやや持ち直し	
住宅建設	減少	緩やかに減少	
公共投資	このところ前年を上回っている	前年を下回っている	
雇用情勢	さらに厳しさを増している	依然として厳しい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

電気機械は、3月は在庫調整が進んだことなどから増加したが、需要不振から低迷している。紙・パルプは、印刷用紙などの在庫調整の動きがみられるものの新聞用紙が安定していることから、おおむね横ばいとなっている。化学は、一部品目で輸出の増加などもあって生産は増加している。食料品・たばこは、1、2月に生産水準を下げ前期比では減少したものの、冷凍食品などの需要は堅調である。一般機械は、建設機械やベアリングなど需要の不振により減少している。



(備考) Pは速報値。

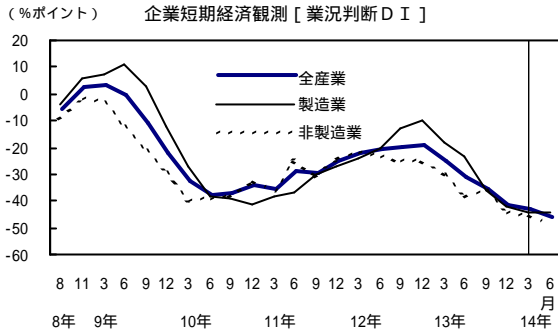
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
電気機械	13.1	10.9	6.1	8.7	44.7
紙・パルプ	12.4	2.8	0.7	0.0	2.9
化学	11.8	3.4	5.1	5.6	16.8
食料品・たばこ	11.4	1.3	2.7	0.9	12.2
一般機械	11.3	16.5	8.3	8.7	2.7
鉱工業	100.0	0.6	0.9	0.9	2.7

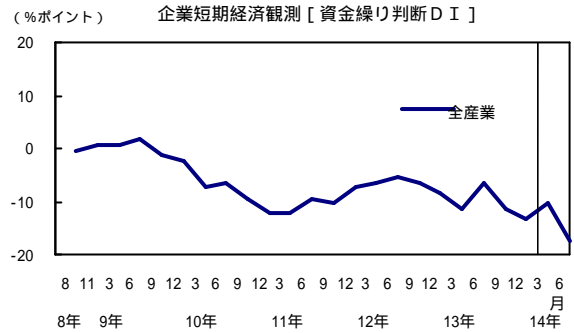
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 1~3月期は速報値。

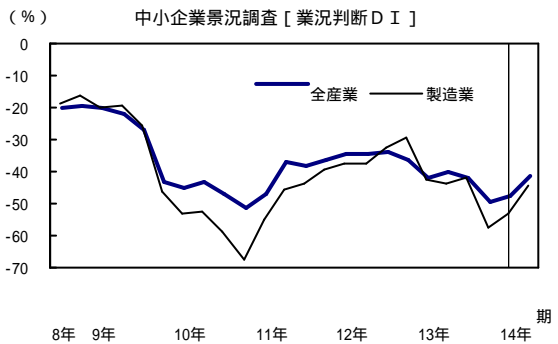
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばい、資金繰り判断は「苦しい」超幅が縮小している。
 企業短期経済観測調査 [業況判断DI、資金繰り判断DI] 及び中小企業景況調査 [業況判断DI]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。6月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。6月は予測



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (4月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「ゴールデンウィーク前は貨物が動く時期であるが、発着貨物が増えていない (輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

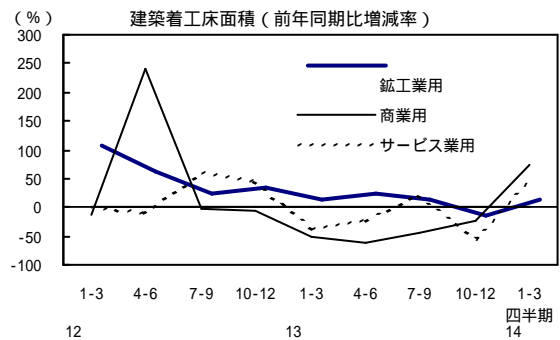
(3) 設備投資の13年度実績見込みは12年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績見込み	14年度計画
全産業	8.2 [5.1]	16.5
製造業	4.3 [11.4]	22.1
非製造業	15.5 [14.8]	12.4

(備考) []は前回(12月)調査結果



2. 需要の動向

(1) 個人消費はこのところやや持ち直している。

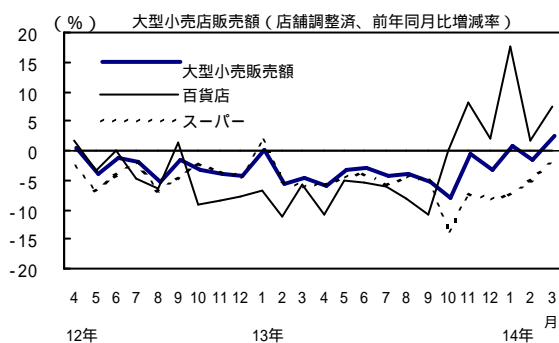
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、暖冬の影響などから冬物衣料品が伸び悩んだものの、3月は春物、初夏物衣料品などが好調であった。また、増床やリニューアル効果により婦人雑貨や海外ブランド品が好調であったため、6か月連続で前年を上回っている。

スーパーは、主力の飲食料品、衣料品ともに依然として不振であることに加え、一部企業の販売活動の停滞や前年の家電リサイクル法施行前の駆け込み需要の反動などもあって前年を下回っている。

景気ウォッチャー調査(4月調査)[家計動向関連DI(現状判断)]

「春休みのイベントは例年よりも人通りが多かったが、売上の増加につながっていない(商店街)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

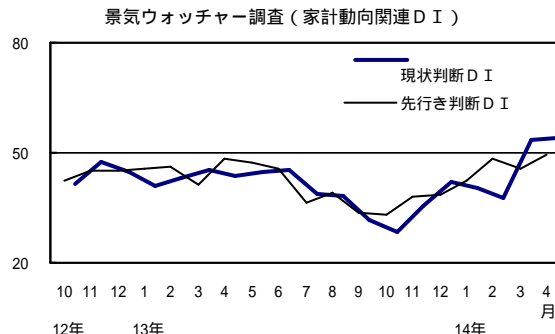
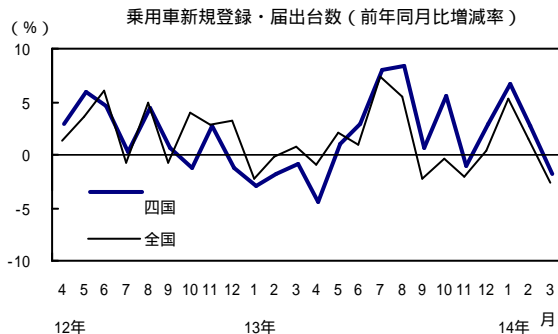


(前年同期比増減率、単位: %)

	13年4-6月	7-9月	10-12月	14年1-3月
大型小売店	5.5	6.0	5.5	0.9
百貨店	7.4	8.1	3.2	9.3
スーパー	4.7	5.1	9.5	4.9
乗用車	1.3	4.0	0.9	0.1
景気ウォッチャー	40.6	32.1	31.3	39.8

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断DIの3か月単純平均

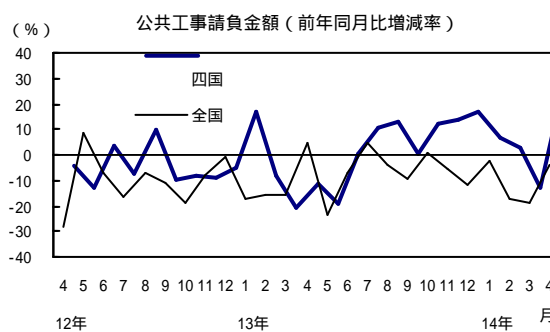
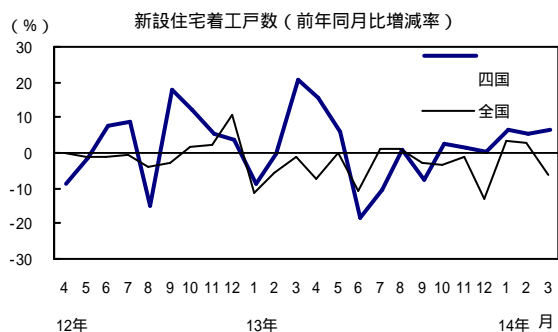


(2) 住宅建設は緩やかに減少している。

全体では減少幅が縮小し、緩やかに減少している。

(3) 公共投資は前年を下回っている。

4月は前年を上回ったが、1~3月期では13.6%減少した。

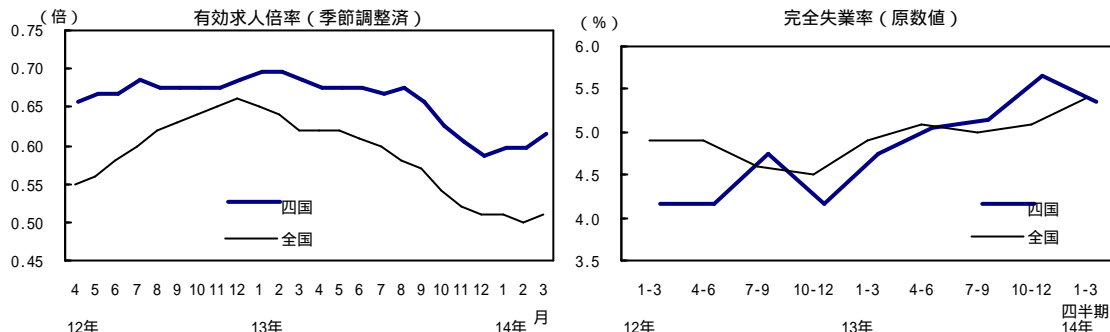


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

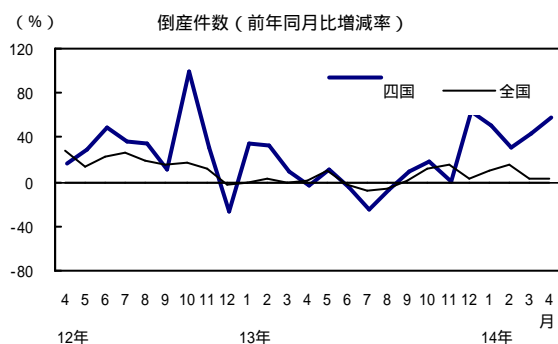
有効求人倍率はこのところ上昇しているが、前期比では横ばいとなっている。完全失業率は、前年同期を上回り、高い水準にある。



景気ウォッチャー調査 (4月調査)[雇用関連 (現状判断)]

「不動産については多少の動きがみられるが、広告の予算を削減する企業が多い(新聞社[求人広告])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数が増加している。



	(件、億円、%)				
	13年4-6月	7-9月	10-12月	14年1-3月	4月
倒産件数 (前年比)	126 10.6	119 19.0	157 10.6	170 29.8	51 45.7
負債総額 (前年比)	290 17.2	511 51.3	915 136.3	844 0.6	159 42.7

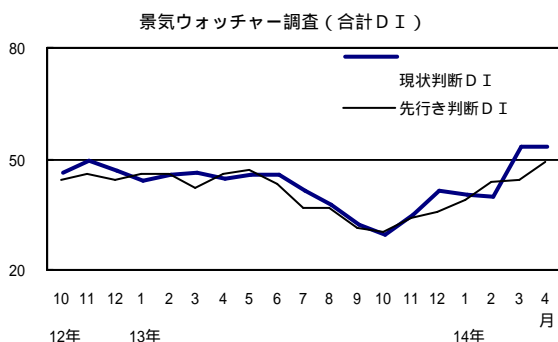
景気ウォッチャー調査 (4月調査)[合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・商店街の空き店舗が飲食関係等で全て埋まり、現在はゼロになったが、景気が底を打ったという話は全く聞かない(商店街)
- ・企業のリストラ等が続いており、求職者数が減らない。また、求人はやや増加しているものの、条件の悪化がみられる(職業安定所)

<先行き>

- ・売上は多少増加しているが、単価が低下しており、利益を圧迫している(食料品製造業)



(10)九州



九州地域では、景気は下げ止まりつつある。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢はさらに厳しさを増している。

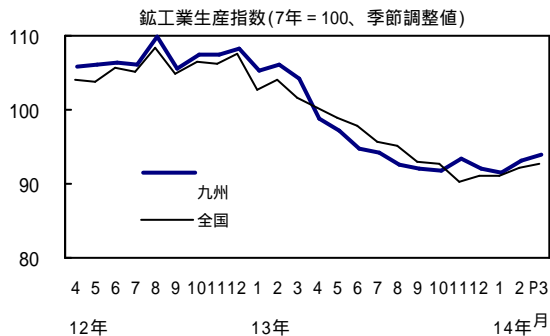
前回調査からの主要変更点

	前回（平成14年2月）	今回（平成14年5月）	
総括表現	悪化している	下げ止まりつつある	
個人消費	やや弱含み	おおむね横ばい	
雇用情勢	厳しさを増している	さらに厳しさを増している	

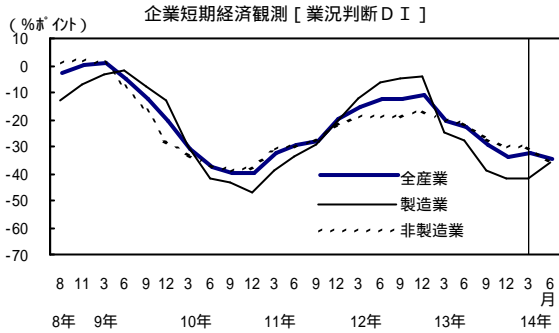
1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

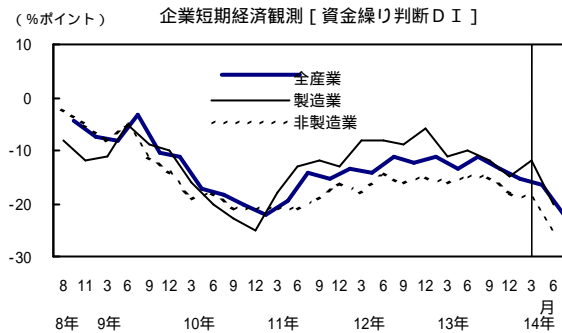
電気機械は、集積回路の回復やプラズマディスプレイなど好調な品目があることなどから生産は増加している。食料品・たばこは、焼酎などの堅調さもあっておおむね横ばいで推移している。化学は、輸入品との競合や定期修理などから生産水準を下げている。一般機械は、発動機など前年を上回っているものもあるが、IT関連需要の不振が続いていることなどから減少している。輸送機械は、全体では減少しているものの、自動車の北米向け輸出が依然として好調である。



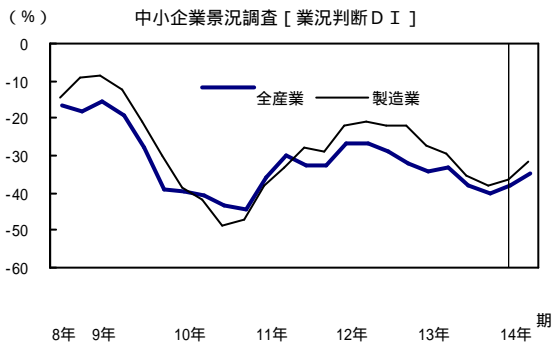
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ横ばいである。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。6月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。6月は予測



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (4月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「半導体関連は回復し出荷が増えてきたが、他の商品の荷動きは依然として悪い。特に最近倒産した大手スーパーなど大型店に出荷していた商品が落ち込んだままである (輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

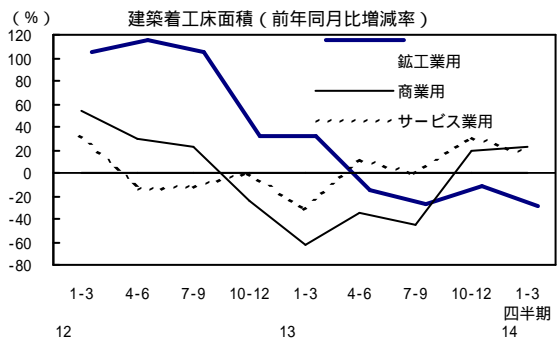
(3) 設備投資の13年度年度実績見込みは12年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績見込み	14年度計画
全産業	9.6 (2.6)	6.6
製造業	26.6 (1.8)	2.4
非製造業	0.9 (4.3)	8.3

(備考) ()は前回 (12月) 調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

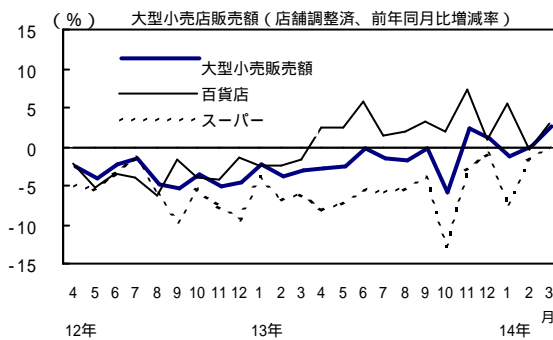
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、2月は前年をわずかに下回ったものの、身の回り品を中心に良く動き、リニューアルや催事効果などもあったことから全体では増加している。なお、暖冬の影響で冬物衣料品が伸び悩んだものの、3月は春夏物衣料品が好調であった。

スーパーは、鮮魚や惣菜などの飲食料品が動いたものの、暖冬による影響で冬物関連商品の伸び悩みや、低価格化による客単価の低下などにより不振が続いている。

景気ウォッチャー調査(4月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「人の動きは若干良くなったが、単価が低下しているので全体的にはあまり変わらない(タクシー運転手)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

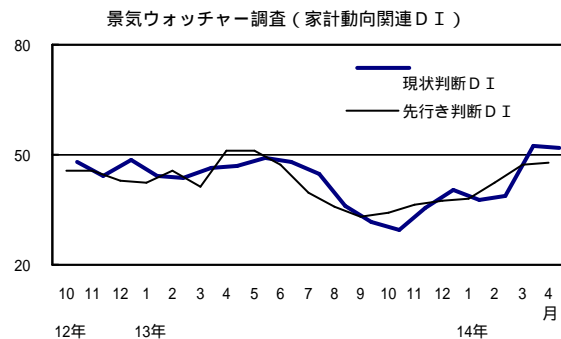
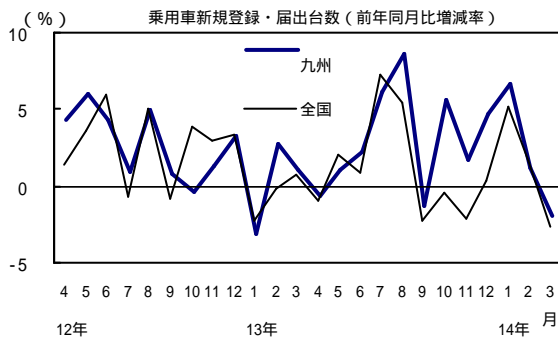


(前年同期比増減率、単位：%)

	13年4-6月	7-9月	10-12月	14年1-3月
大型小売店	3.1	2.3	1.8	0.8
百貨店	3.4	2.1	2.9	2.9
スーパー	7.0	5.1	5.2	3.5
乗用車	0.0	3.1	2.9	0.0
景気ウォッチャー	44.0	33.6	31.1	39.0

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。

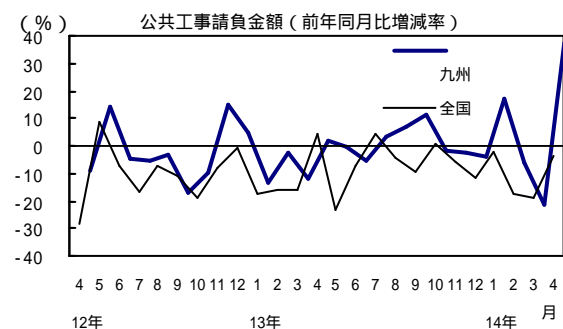
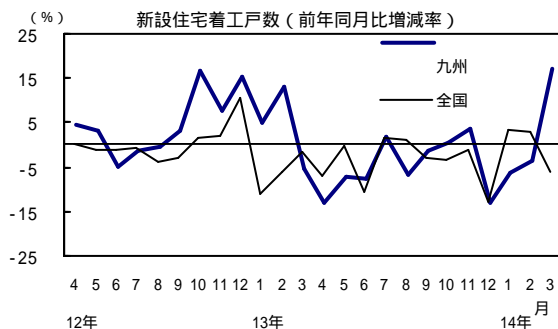


(2) 住宅建設は減少している。

貸家は増加しているものの、持家を中心に下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は前年を下回っている。

4月は前年を上回ったが、1～3月期では19.8%減少した。

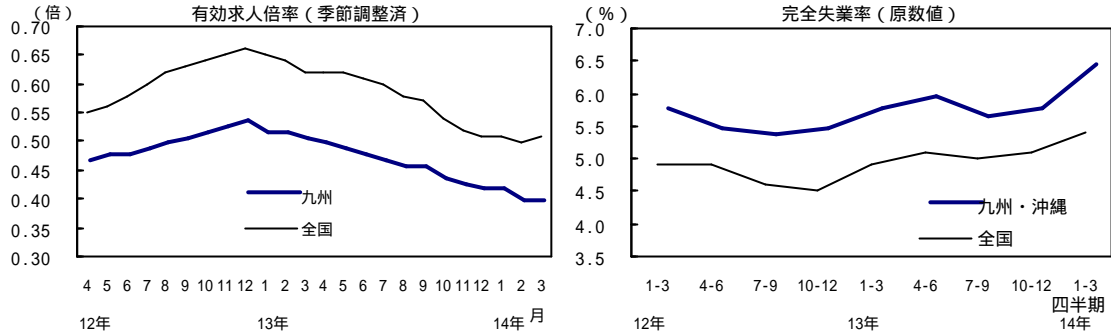


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢はさらに厳しさを増している。

有効求人倍率及び完全失業率

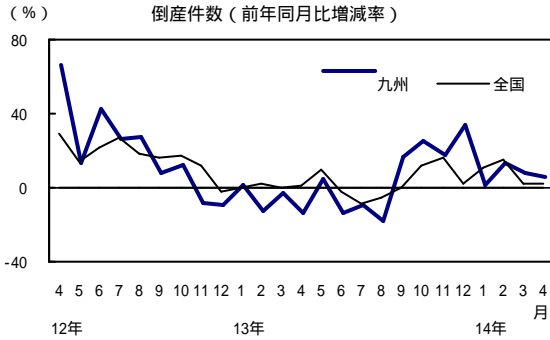
有効求人倍率は低下している。完全失業率は、前年同期を上回り、高い水準にある。



景気ウォッチャー調査 (4月調査) [雇用関連 (現状判断)]

「派遣のオーダー期間が、短期、単発のものが中心となり、長期のものが極端に少なくなっている (人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数が増加している。



	(件、億円、%)				
	13年4-6月	7-9月	10-12月	14年1-3月	4月
倒産件数	423	471	523	411	139
(前年比)	14.5	11.3	18.6	0.7	0.7
負債総額	1,086	1,939	4,949	1,403	2,343
(前年比)	61.5	18.9	340.1	71.2	817.6

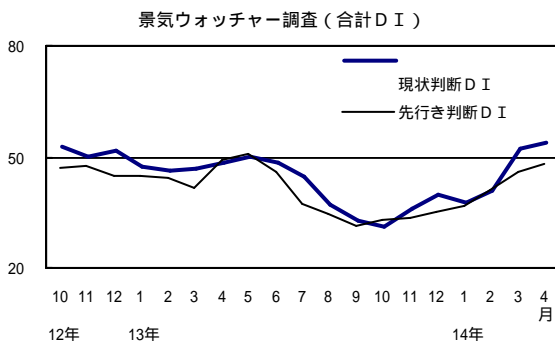
景気ウォッチャー調査 (4月調査) [合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

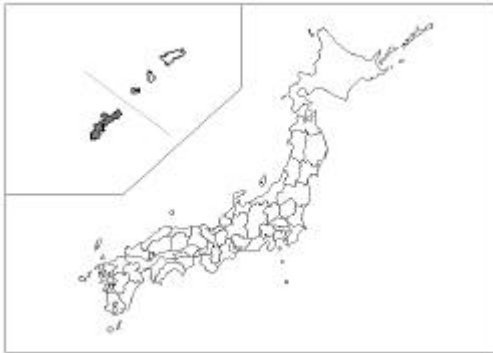
- ・近くに競合店となる大型商業施設ができたにもかかわらず、当店の売上は昨年並みをキープしている。客の財布のひもが緩くなっている (百貨店)。
- ・半導体関連は回復し、出荷が増えてきたが、他の商品の荷動きは依然として悪い。特に最近倒産した大手スーパーなど大型店に出荷していた商品が落ち込んだままである (輸送業)。

<先行き>

- ・最近、新規見積りや取引先の状況からみると、I C 関連を中心に景気が少し良くなりつつある。また、受注が今までより増加している (九州 = 精密機械器具製造業)。



(11) 沖縄



沖縄地域では、景気はこのところやや改善している。

- ・ 観光は増加傾向である。
- ・ 設備投資の13年度実績見込みは12年度実績を上回っている。
- ・ 個人消費はこのところ持ち直している。

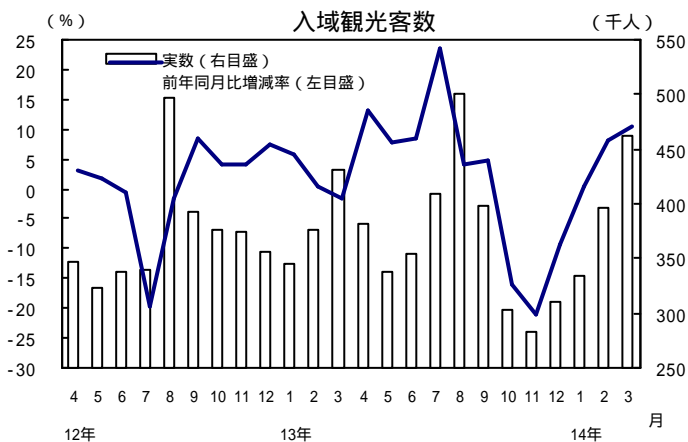
前回調査からの主要変更点

	前回（平成14年2月）	今回（平成14年5月）	
総括表現	悪化している	このところやや改善している	
観光	大幅に減少	増加傾向	
設備投資	13年度計画は前年度実績を下回っている	13年度実績見込みは12年度実績を上回っている	
個人消費	おおむね横ばい	このところ持ち直し	
雇用	厳しい状況	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる	

1. 生産及び企業動向

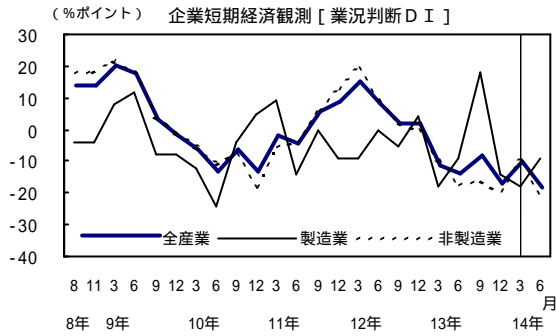
(1) 観光は増加傾向である。

入域観光客数は、米国における同時多発テロ事件の影響で1月は前年比で2.8%減少したものの、緊急キャンペーン、格安商品の販売等の効果により2月4.9%増、3月7.1%増と2か月連続で増加し、2、3月の入域観光客数は各月の過去最高を記録した。また、主要ホテルの客室稼働率は、那覇市内ホテル、リゾートホテルともに1、2、3月で前年を上回り、高水準で稼働している。

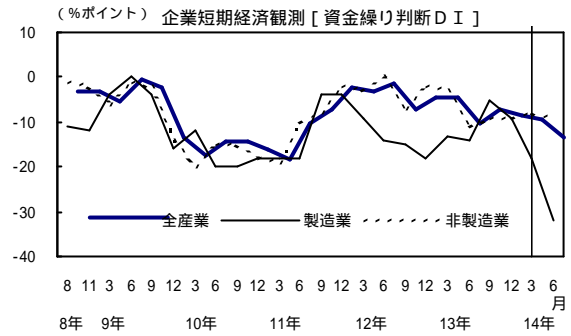


(備考) 入域観光客数は沖縄県観光リゾート局調べ。

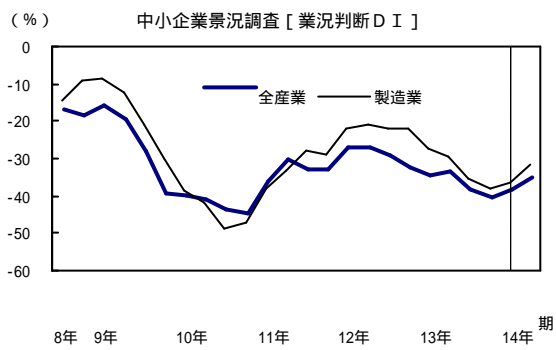
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいである。
 企業短期経済観測調査 [業況判断DI、資金繰り判断DI] 及び中小企業景況調査 [業況判断DI]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。6月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。6月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し。
 九州地区のDI。

景気ウォッチャー調査 (4月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「受注量及び販売量は横ばいの状況である (不動産業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の13年度実績見込みは12年度実績を上回っている。

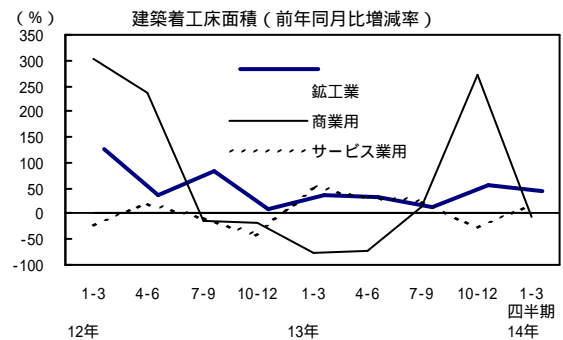
13年度実績見込みは、製造業では、食料品で前年度の工場移転投資の反動により前年度を下回るものの、非製造業では、運輸で大型設備の新規購入があったことから前年度を上回る見込みとなっており、全産業で12年度実績を上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績見込み	14年度計画
全産業	1.6 (8.6)	11.0
製造業	32.9 (13.8)	12.2
非製造業	8.4 (12.2)	13.8

(備考) ()は前回(12月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はこのところ持ち直している。

百貨店販売額、スーパー売上高、家電卸出荷額

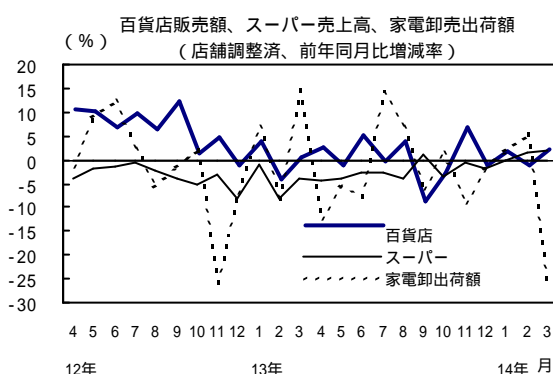
百貨店は、3月に催事効果などにより身の回り品を中心に前年を上回り、1～3月期ではほぼ前年並みで推移した。

スーパーは、天候に恵まれ夏物衣料が好調に推移したことから衣料品は前年を上回り、全体でも1～3月期は既存店ベースでは11期ぶりに前年を上回った。全店ベースでの増加も続いている。

家電は、新築共同住宅向けの需要等により引き続きエアコンが好調なものの、家電リサイクル法施行前の駆け込み需要の反動により、テレビ、冷蔵庫が前年を大幅に下回り全体では前年を下回っている。

景気ウォッチャー調査(4月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

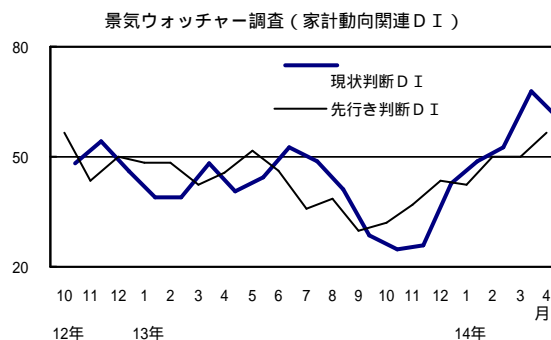
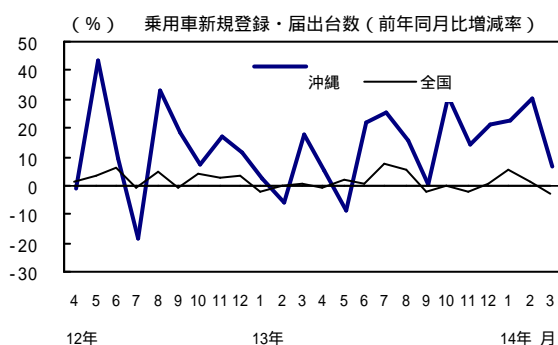
「低価格の発泡酒しか売れない状況にあるが、販売量の増加と酒類・発泡酒の新作商品の売上増加により、酒類の売上は横ばいの状態を維持している(コンビニ)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比増減率、単位：%)

	13年4-6月	7-9月	10-12月	14年1-3月
百貨店	0.3	3.4	1.4	0.8
スーパー	3.7	2.0	2.0	1.0
家電卸出荷	8.4	5.3	3.2	10.3
乗用車	1.5	9.0	16.5	10.3
景気ウォッチャー	41.5	35.3	26.9	52.1

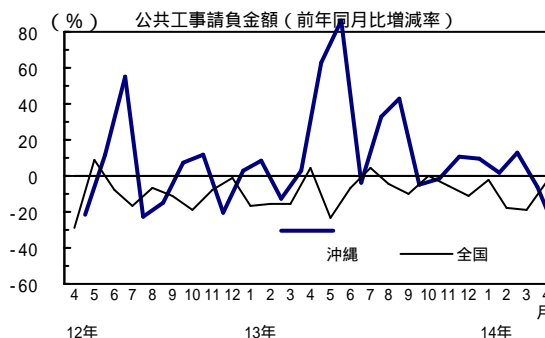
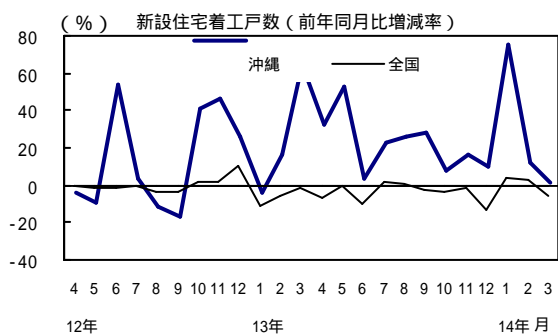
- (備考) 1. 百貨店販売額、家電卸出荷額は中経銀行調べ。
2. スーパー売上高は日本銀行羽陽支店調べ。店舗調整済。
3. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいである。

貸家の増加は続いているものの持家では前年を下回り、全体ではおおむね横ばいである。

(3) 公共投資は前年を下回っている。

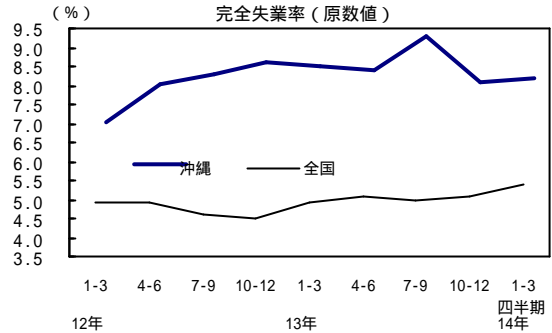
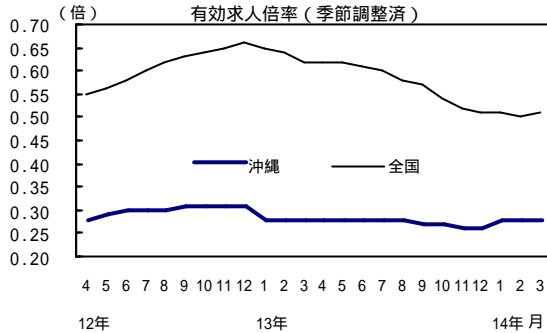


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は、横ばいで推移し、完全失業率は、高い水準にあるものの前年同期を下回っている。

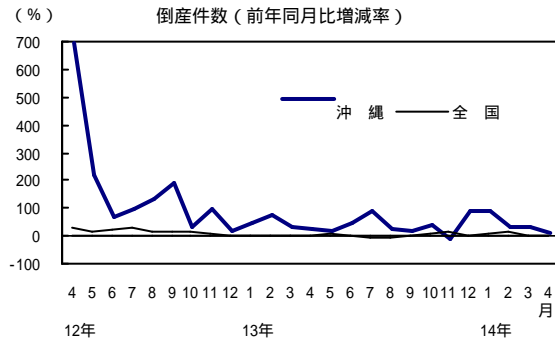


(備考) 失業率は、沖縄県企画開発総務課「労働力調査」より。

景気ウォッチャー調査(4月調査)[雇用関連(現状判断)]

「一時中断していた観光関連業者からの受注がくるなど、受注数の対前年比は下げ止まっている(人材派遣会社)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数が横ばいである。



	(件、億円、%)				
	13年4-6月	7-9月	10-12月	14年1-3月	4月
倒産件数	30	35	30	28	8
(前年比)	16.7	10.3	16.7	0.0	33.3
負債総額	246	148	73	71	8
(前年比)	100.1	68.4	20.6	17.6	95.6

景気ウォッチャー調査(4月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

・有料施設を含めた施設への来客数は対前年比で有料施設が95.8%、全体では94.4%とやや少なかったものの、3か月前と比較すると有料施設では4.5ポイント、施設全体では3.9ポイントそれぞれ増加している(観光名所)

<先行き>

・県及び民間企業による観光キャンペーン効果で低価格パックの個人フリープラン旅行者が増加しており、団体客よりも個人フリープラン客の方がレンタカーの利用などでコンビニを活用する割合が高いことから、今後も来客数の増加が期待される(コンビニ)

